

第4回 史跡玉川上水整備活用計画検討委員会 議事資料
＜参考資料＞

○ 報告事項関連

- 1 整備活用計画の改定に係る住民説明会（第2回） 1

○ 検討事項関連

- 2 玉川上水（中流部）と沿線の緑被分布図 2
3 法面・法肩に生育する大径木の分布状況 3
4 玉川上水関連の企画（令和5年度の東京都水道局取組） 8
5 緑道・道路（車道・歩道）のフェンス（現況） 9

1 整備活用計画の改定に係る住民説明会（第2回）

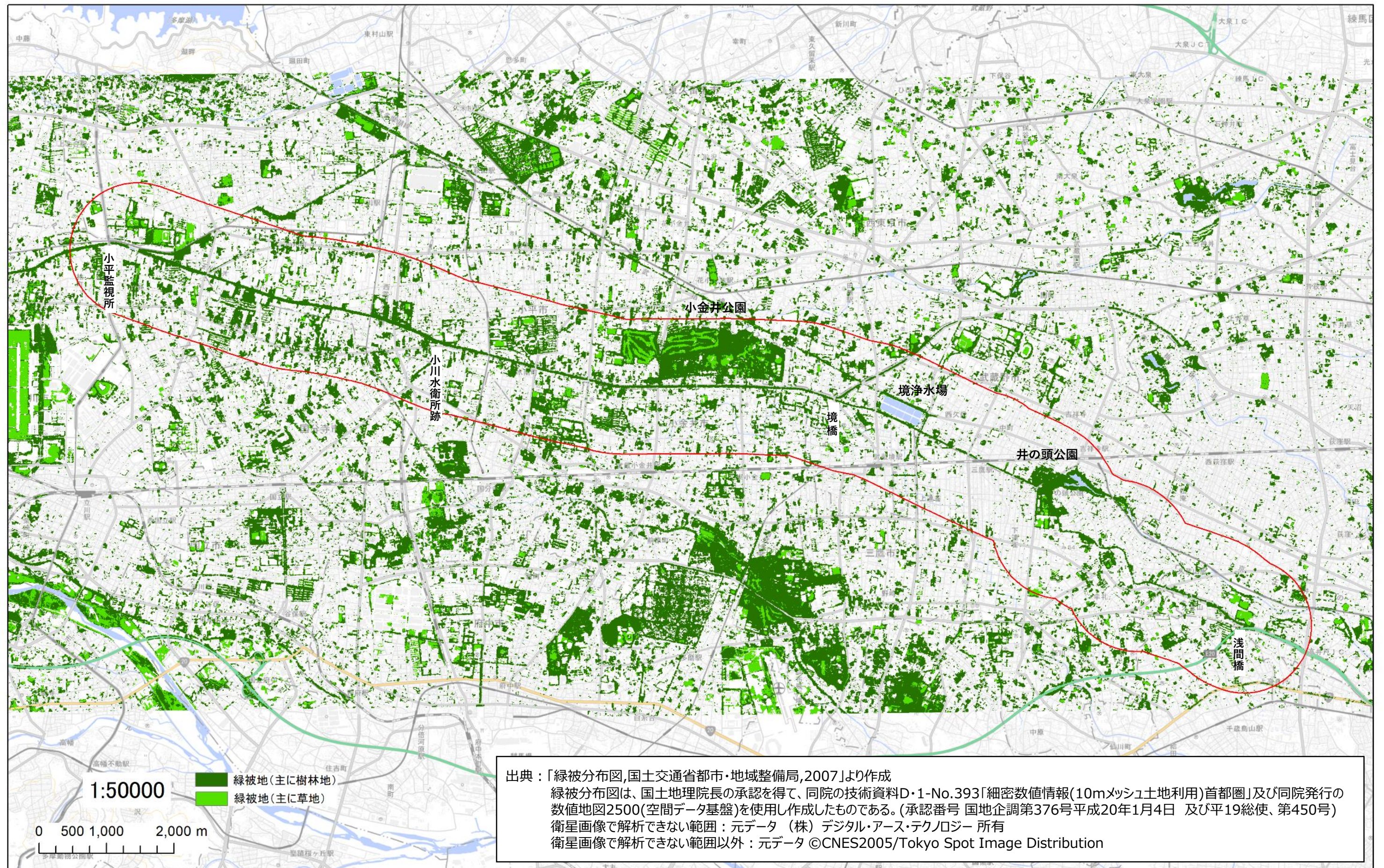
- 開催日時： 令和6年2月9日（金）午後5時～午後6時35分
- 議事内容： 1) 史跡玉川上水整備活用計画の改定に向けた検討状況について
2) 意見交換

- 会 場： 武蔵野スイングホール
- 参加者： 28名

【ご意見・要望】（※整備活用計画や維持管理に関するもの。発言順のとおり）

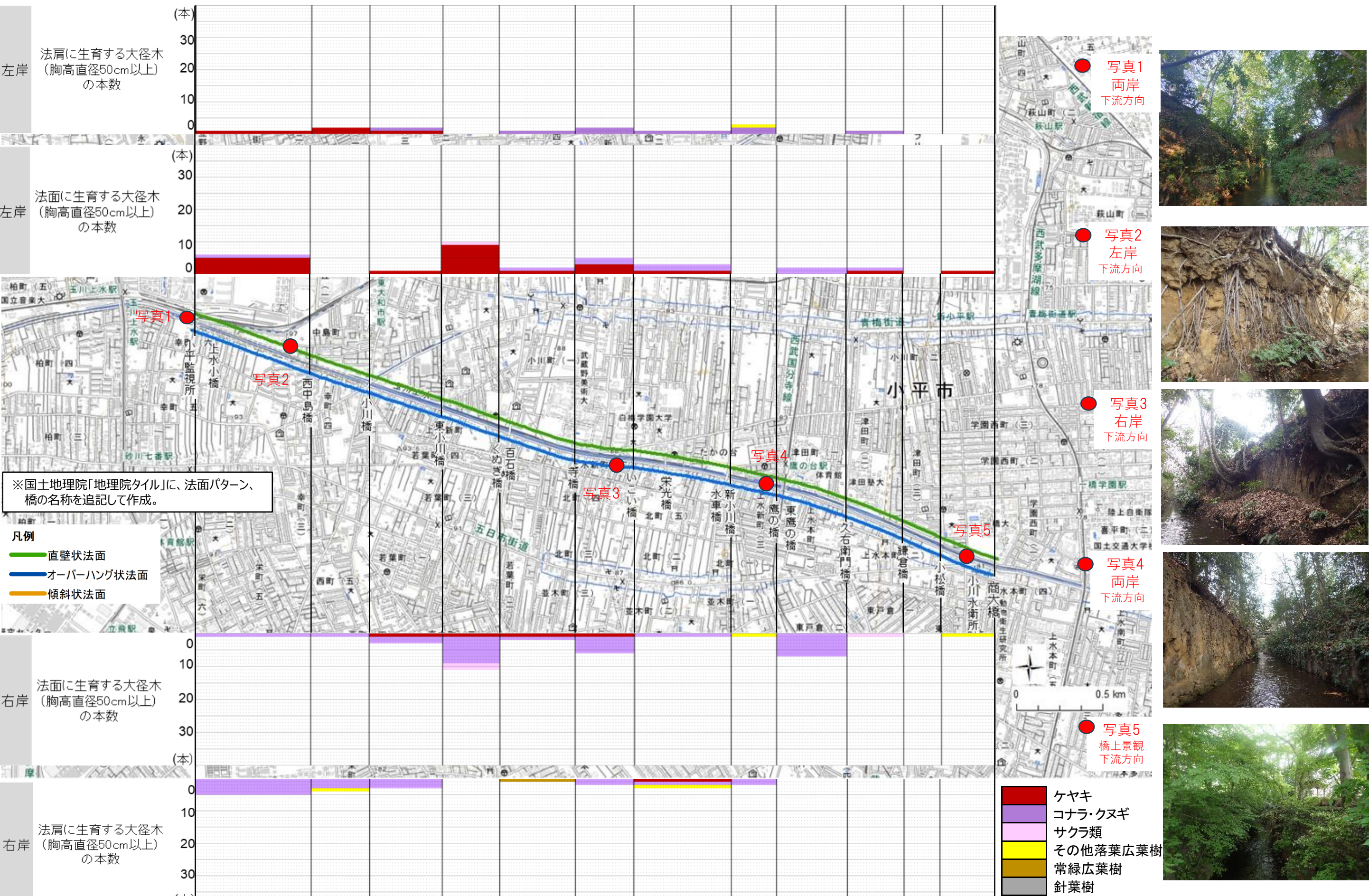
- ・委員会資料に生物多様性に関することが多く記載されている。特にエコロジカル・ネットワークの観点から周辺地域との連携が記載されている。
- ・ゾーン⑤を明るい雑木林として保全するのはいいことである。どんぐりから実生を育てるために、境浄水場に協力いただき、草刈りに配慮いただいている。これが明るい雑木林につながってくる。
- ・計画の考え方であるが、第一優先は水路・法面の保全、第二優先が生物多様性に配慮した植生管理ということであれば理解できる。
- ・水道局は水道の維持管理が主であることは理解しているが、玉川上水に力を入れていくことはいいこと。
- ・整備活用計画の見直しにおいて、ゾーン④を名勝の区間と明記し、新規事業と継続事業が明記されているのが素晴らしい。また、ゾーン毎の地域性や色々な意見がある中で、ゾーン④を名勝区間として尊重されているのがうれしい。
- ・資料6ページの「（3）① イ 生物多様性の保全」の項目が新規に追加され、大変重要な点が押さえられて感動した。
- ・活用整備の目標にも生物多様性を追加してほしい。活用整備の観点から玉川上水の生物多様性を保全し、学べる場としてほしい。
- ・法面の測定を行うことは良いこと。一見して、法面がオーバーハングしている箇所の樹木は危なそうに見えるが、測定した結果、法面の後退がなければ、（樹木の伐採を）様子見してほしい。今後は見た目ではなく、モニタリング結果を踏まえて、優先箇所や対応箇所を判断してほしい。
- ・ヤマザクラは大事にするものであるが、それ以外を排除するのは生物多様性に反する。ヤマザクラを被圧したものでなければ、他の樹木と共存できる。両方（ヤマザクラと他の樹木）の価値観の中立をさせることが大事。
- ・歴史的価値だけではなく、エコロジカル・ネットワークとしての価値を記載してほしい。
- ・計画やモニタリングが生物多様性の保護につながるようにしてほしい。杉並区間の植生が単調であるとのことだが、ハチモドキハナアブ、キンラン、カワセミ、ヤモリがいるなど、かろうじて下地が残っている。
- ・エコロジカルネットワークの観点から、針葉樹や常緑樹の古木・大木を残すことは動物の隠れ家としても大事。安全な箇所では、残してほしい。また、竹と笹が茂っているところは、小鳥の隠れ家になるので、眺望の確保において支障にならないところは残してほしい。
- ・ゾーン⑤の一部の箇所において、竹とオオムラサキが高木化しているが、草刈り業者は、花を切れないと言っていた。市民が大事にしてほしいと言っているのはノカンゾウのような山野草であり、オオムラサキを大事してほしいということではなかったはずだ。
- ・玉川上水を利用する人がどのようなことに関心があるのか、どのような活用しているのかを計画に明記したほうが良いのではないかと。
- ・玉川上水の計画に関して作成した資料はたくさんあると思うが、それを公開してほしい。
- ・玉川上水は、武蔵野台地の高いところから関東山地の水を流した。水が流れたことで、関東山地の生物を引き連れてきた。玉川上水は都心に流れていくので、明治神宮や、新宿御苑の生物多様性に繋がっている。玉川上水はいきものの通り道として非常に重要である。
- ・柵を統一する理由はあるのか。鷹の台地区は観察がしにくい。地域ごとに柵の形状が違っていてもよいのではないかと。
- ・名勝区間での桜と他の樹木を共存させてほしい
- ・小平市域では柵が低い区間がある。堀が深く危険な箇所が放置されていることを自覚してほしい。生物多様性もいいが、まずは人の命、安全の確保を大事にほしい。検討委員会に保安の専門家を入れてほしい。
- ・生物多様性は重要であるが、史跡・名勝として、次世代に受け継ぐ価値・守るべき価値を損ねないような生物多様性の検討をしてほしい。史跡玉川上水は人工物であり、名勝「小金井（サクラ）」は人工林である。そのうえでの生物多様性を考えてほしい。
- ・玉川上水分水網の水利機能を保全しながら、いざという時のための水資源としての活用ができないか。
- ・50年後の子供たちに、玉川上水は国の宝であること。歴史的価値のある水路であることを伝えたい。
- ・ゾーン③でヤマザクラの整備に関する内容が薄くなっていると感じる。ヤマザクラに関して、引き続き、復活をしていくのか明確にしてほしい。

2 玉川上水（中流部）と沿線の緑被分布図



3 法面・法肩に生育する大径木の分布状況 【区間(Ⅰ)小平監視所～小川水衛所跡】

■ 直壁状法面、オーバーハング状法面に生育する樹木の本数・樹種 (法面及び法面から50cmの範囲 (法肩) に生育するもの) ※第2回委員会資料より再掲



※図上の法面パターンは、各橋間における主な形状を示す。また、第1回委員会(R5.5.23)参考資料において示した法面パターンについて一部修正を行っている。

3 法面・法肩に生育する大径木の分布状況 【区間(Ⅱ)小川水衛所跡～境橋】

■ 直壁状法面、オーバーハング状法面に生育する樹木の本数・樹種 (法面及び法面から50cmの範囲 (法肩) に生育するもの) ※第2回委員会資料より再掲

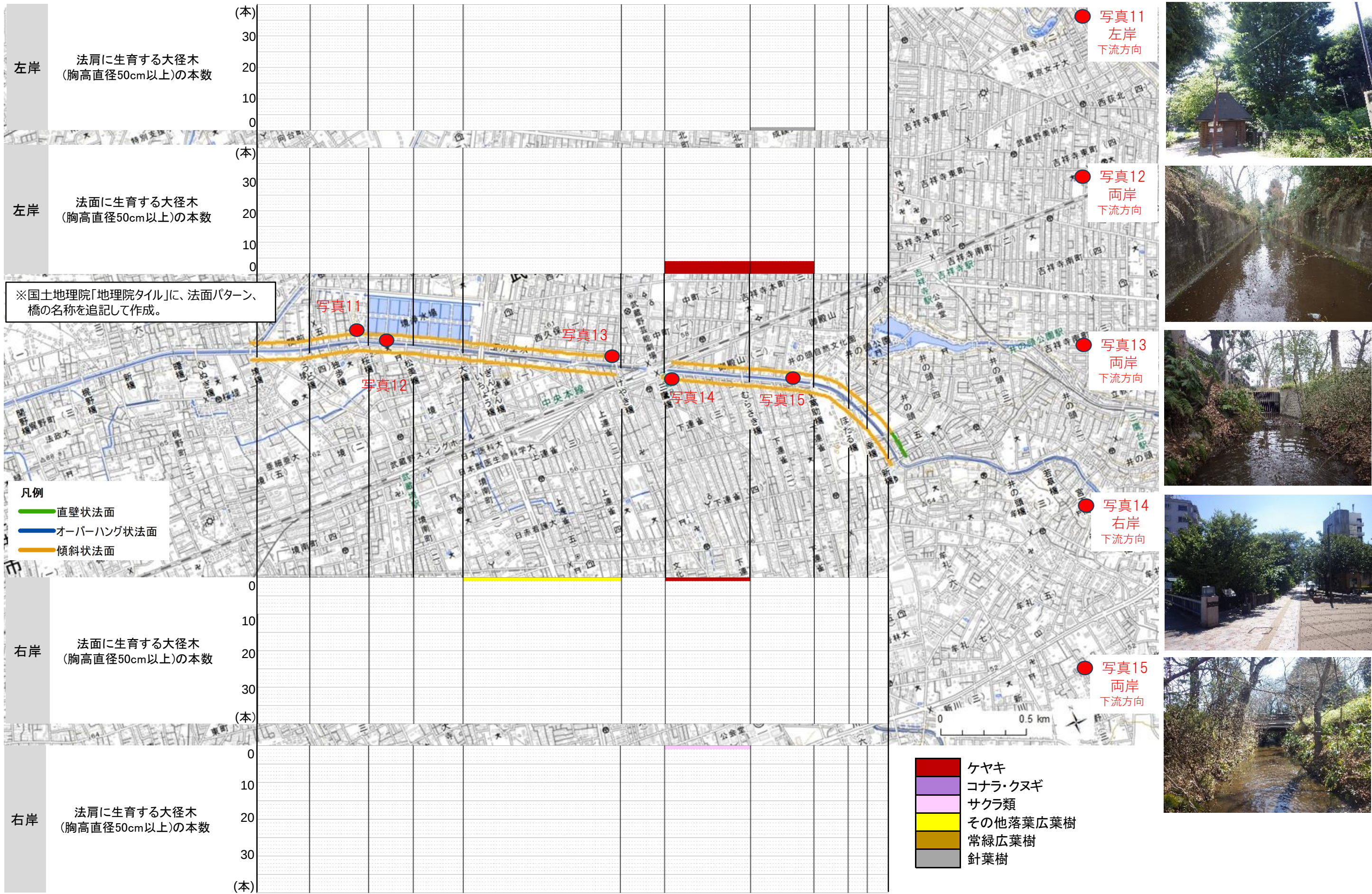


※図上の法面パターンは、各橋間における主な形状を示す。また、第1回委員会(R5.5.23)参考資料において示した法面パターンについて一部修正を行っている。

3 法面・法肩に生育する大径木の分布状況 【区間(Ⅲ)境橋～新橋】

※第2回委員会資料より再掲

■ 直壁状法面、オーバーハング状法面に生育する樹木の本数・樹種 (法面及び法面から50cmの範囲 (法肩) に生育するもの)



※図上の法面パターンは、各橋間における主な形状を示す。また、第1回委員会(R5.5.23)参考資料において示した法面パターンについて一部修正を行っている。

3 法面・法肩に生育する大径木の分布状況 【区間(Ⅳ)新橋～東橋】

※第2回委員会資料より再掲

■ 直壁状法面、オーバーハング状法面に生育する樹木の本数・樹種 (法面及び法面から50cmの範囲 (法肩) に生育するもの)

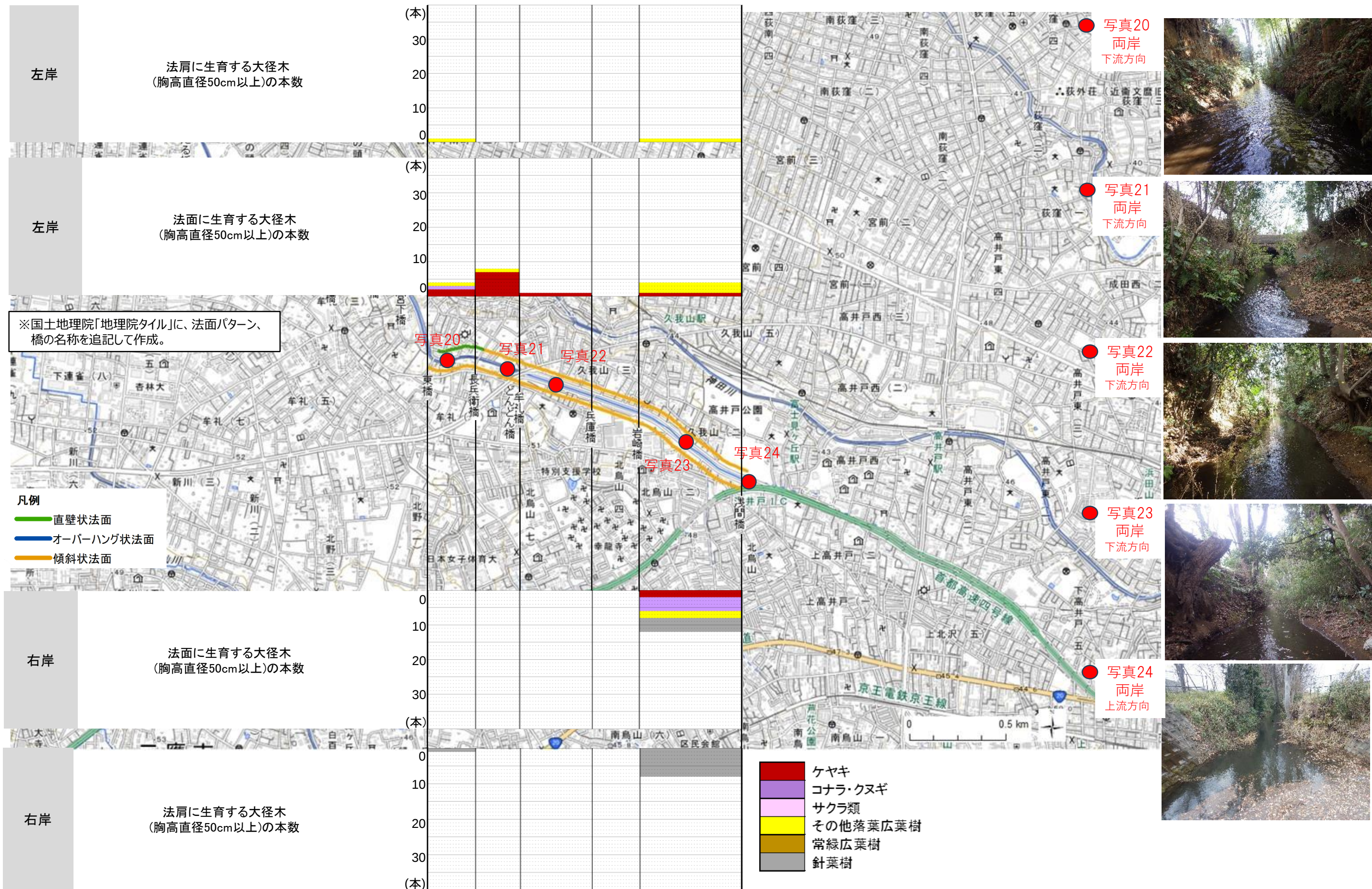


※図上の法面パターンは、各橋間における主な形状を示す。また、第1回委員会(R5.5.23)参考資料において示した法面パターンについて一部修正を行っている。

3 法面・法肩に生育する大径木の分布状況 【区間(V) 東橋～浅間橋】

※第2回委員会資料より再掲

■ 直壁状法面、オーバーハング状法面に生育する樹木の本数・樹種 (法面及び法面から50cmの範囲 (法肩) に生育するもの)



※図上の法面パターンは、各橋間における主な形状を示す。また、第1回委員会(R5.5.23)参考資料において示した法面パターンについて一部修正を行っている。

4 玉川上水関連の企画事例（令和5年度の東京都水道局取組）

【水道歴史館 特別展示】「上水記展 –江戸上水の管理–」

期 間	R5/10/28(土)～11/5(日)
場 所	水道歴史館 3F レクチャーホール

- 『上水記』は、天明八年(1788)に起稿し、3年がかりで寛政三年(1791)に完成した江戸上水(主に神田上水・玉川上水)の公式記録で、現在、東京都水道歴史館で保存
- 貴重な江戸の上水史料として、昭和52年(1977)に東京都指定有形文化財(古文書)に指定されており、毎年、「東京文化財ウィーク」にあわせ、実物資料を特別公開
- 令和5年度の上水記展では、「江戸上水の管理」をテーマに、江戸幕府がどのようにして江戸の上水を支配していたかについて紹介



【歴史館 学習講座】「江戸上水基礎講座－史料で読み解く江戸上水－」

期 間	R5/4月～R6/3月 (10回連続講座)
場 所	水道歴史館 3F レクチャーホール

- 令和5年度は、「江戸上水について触れたさまざまな文献(地誌・随筆・由緒書など)を取り上げ、それらの分析を通して、江戸上水の実際の姿に迫る連続講座
- ① 4月 江戸上水の概要「御府内上水在絶略記」
- ② 5月 江戸市中の地誌「御府内備考」
- ③ 6月 神田上水創設の伝承①「御菓子司大久保家の由緒書」
- ④ 7月 神田上水創設の伝承②「神田上水元水役茂十郎書上」
- ⑤ 9月 地誌に見える神田上水
- ⑥ 11月 玉川上水創設①「玉川庄右衛門・清右衛門書上」
- ⑦ 12月 玉川上水創設②「玉川上水紀元并野火留分水口之訳書」
- ⑧ 1月 玉川上水創設③「玉川上水取締方承伝存付覚書」
- ⑨ 2月 地誌に見える玉川上水
- ⑩ 3月 江戸上水にまつわる随筆など

【水道歴史館 収蔵資料展示】「羽村日誌」・「羽村文書」

期 間	R5/6/10(土)～6/25(日)
場 所	水道歴史館 3F ライブラリー前

- 『羽村日誌』は、明治から大正時代にかけて、羽村取水堰の日々の管理や業務記録などを綴った日誌。明治2年～5年、明治13年～大正13年の日誌を所蔵(明治14年、32年、41年、42年欠)
- 『羽村文書』は、江戸後期から明治時代の羽村取水堰の工事や管理記録を綴った文書。16冊残されており、江戸後期から明治時代の堰の工事に関わる文書が9冊、手紙をまとめたものが3冊、その他諸記録類が4冊
- 全文をデジタルアーカイブシステムで公開
- 令和5年度は、「羽村日誌」に続く昭和前期を中心とした羽村取水堰の古い記録や記録写真を展示公開



【現地イベント】「玉川上水紅葉ウォーキング」

期 間	R5/11/3(金・祝)～12/3(日)
場 所	玉川上水沿道

- 誰でも気軽に参加できるウォーキングイベント
- 実施期間中に、玉川上水を散策(チェックポイント(3箇所)のいずれかが含まれていれば歩き方は自由)
- チェックポイント(1か所以上)で、自身又は同行者が入った写真を撮影し、水道局PR施設(東京都水道歴史館、東京都水の科学館、奥多摩 水と緑のふれあい館)の受付で写真を提示すると、水道局オリジナルグッズをプレゼント
- 令和5年度のチェックポイントは、上流部の①「玉川兄弟の像」、中流部の②「清流復活用水の放流口」、③「史跡玉川上水の碑」



5 緑道・道路（車道・歩道）のフェンスの現況

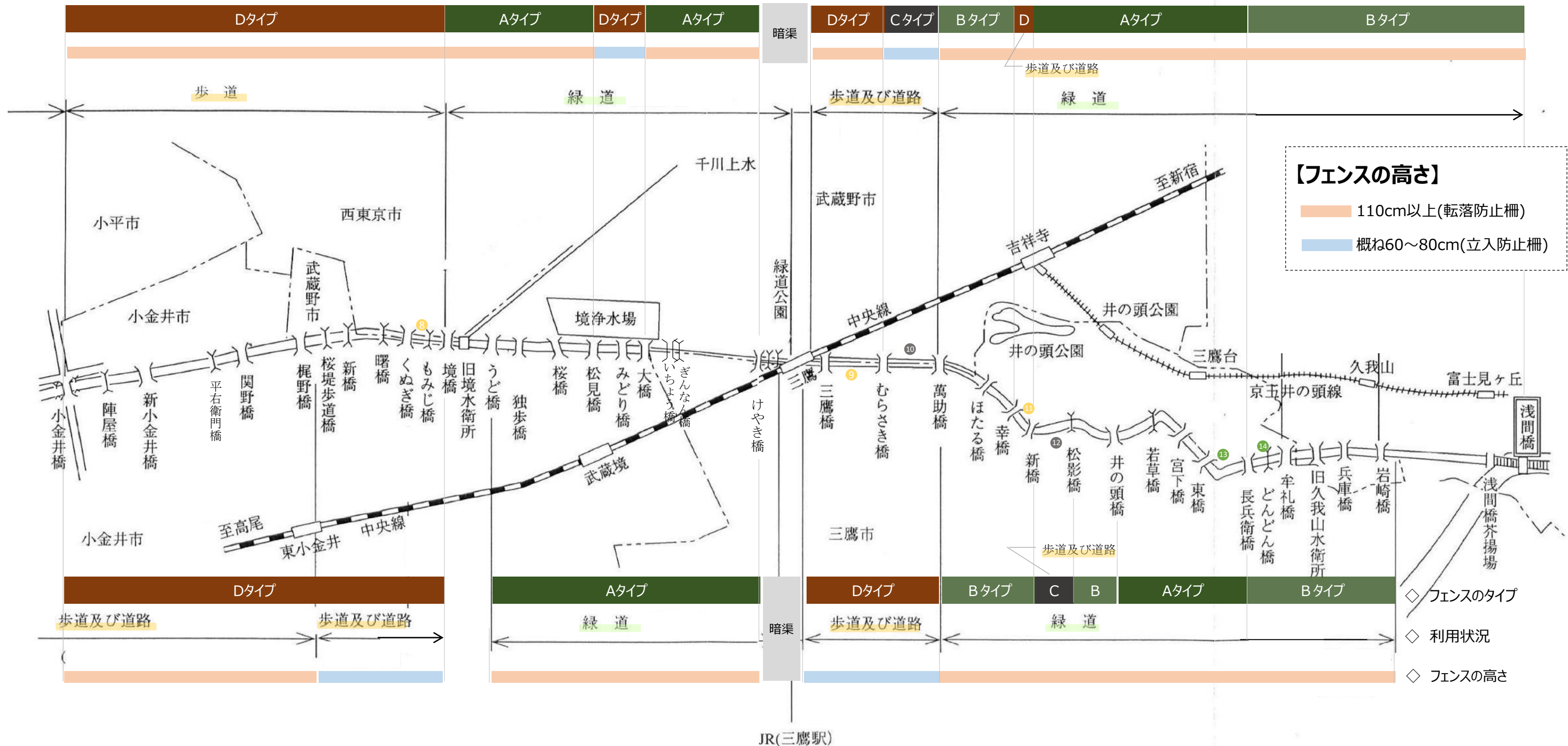


【フェンスのタイプ^o（色彩・素材等）】



注) 図は概ねの現況を表したもの。玉川上水管理区分図は「史跡玉川上水保存管理計画」p62-p65を一部修正。

5 緑道・道路（車道・歩道）のフェンスの現況



【フェンスのタイプ（色彩・素材等）】



注) 図は概ねの現況を表したもの。玉川上水管理区分図は「史跡玉川上水保存管理計画」p62-p65を一部修正。